

## 令和4年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和4年漁期（令和4年9月～令和5年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様についてお知らせします。漁獲量の集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

### 1. 漁獲量及び水揚げ金額

令和4年漁期の漁獲量は2,644トン、水揚げ金額は14.7億円となり、漁獲量、水揚げ金額ともに前年漁期と比べて増加しました（図1）。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚げ金額は7～10億円で推移しており、震災後は2,500トン前後、10～14億円で推移しました。令和4年漁期は、漁獲量では震災後の平均的な水準となりましたが、漁獲金額では震災後最も高い水準となりました。

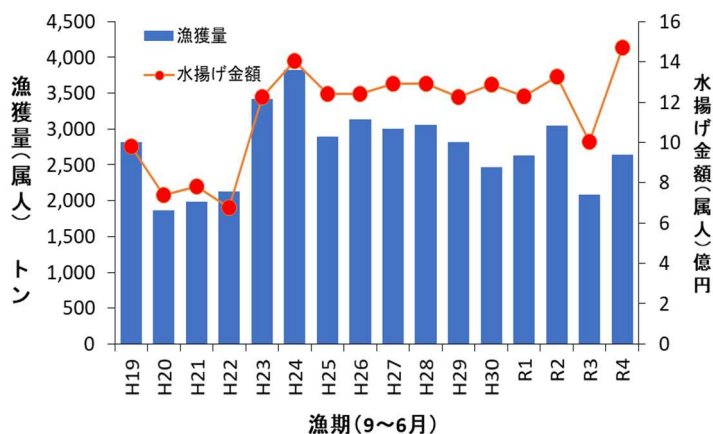


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚げ金額の推移

### 2. 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種

令和4年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、**1位メヒカリ 635トン**（前年漁期 269トン、2位）、**2位ヤリイカ 471トン**（同 522トン、1位）、**3位ヒラメ 224トン**（同 83トン、3位）、**4位ヤナギダコ 113トン**（同 73トン、5位）**5位アンコウ 98トン**（同 59トン、8位）でした（図2）。前年漁期に比べ、ヤリイカを除くすべての魚種で増加しました。

水揚げ金額の上位5種はヤリイカ、メヒカリ、ヒラメ、ナマコ、アナゴの順となり、前年漁期に比べ、すべての魚種で増加しました。水揚げ平均単価（kg/円）は、**ヤリイカ 670円**（前年漁期 473円）、**メヒカリ 432円**（同 415円）、**ヒラメ 410円**（同 646円）、**ナマコ 2,591円**（同 2,204円）、**アナゴ 579円**（同 418円）で、ヒラメを除くすべての魚種で上昇しました。

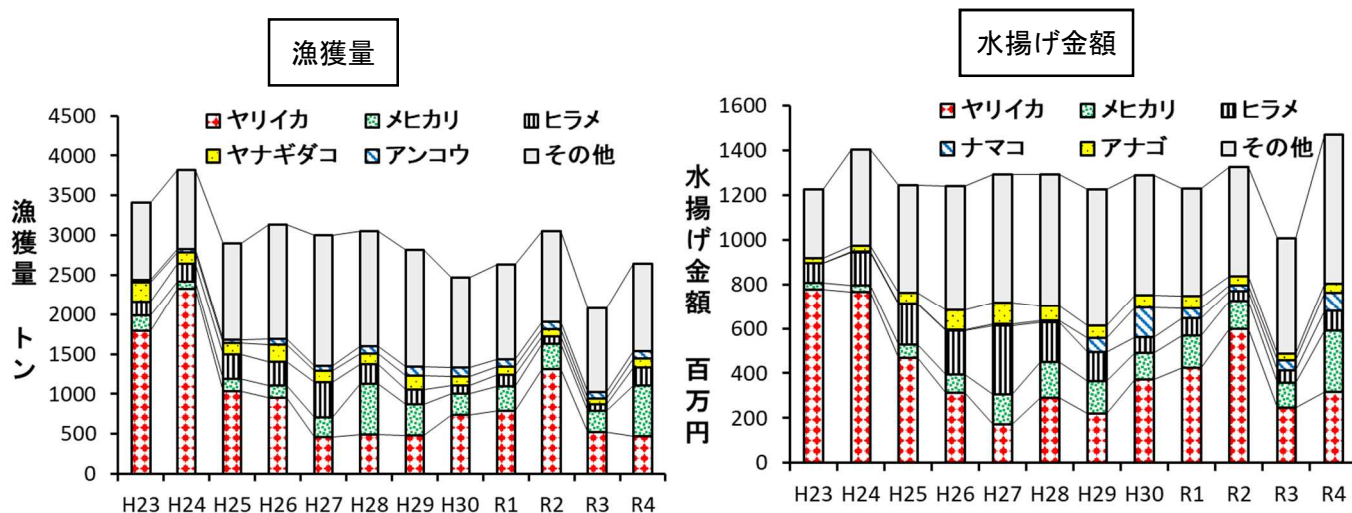


図2 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種の推移

【次回予告】R5.7.28 発行の水産の窓は、「春シラス漁の漁況経過と秋シラスの予測」を予定しています。